

## 1. 学校概要

関わりのある料理として「和食」があるが、6年生では、家庭科の学習で、千葉県の郷土料理である「太巻き祭り寿司」やお正月に食べる「おせち料理」の調理実習を行った。それぞれの料理について、その歴史や込められた思いなどを学習し、調理実習を通して、より身近に感じ、受けついでいこうとする態度を育成することをねらいとした。さらには、5、6年生が「全国子ども和食選手権」に応募し関東ブロック代表として選ばれた。和食や郷土料理の良さを主体的で対話的な学び(アクティブラーニング)をふまえて自由形式で3分間のVTRにまとめ、世界に向けて発信している。

### ③ 地域コミュニティとの交流・体験学習

3・5年生の社会科学習の発展として、地域の梨農家さんや稲作経験者の方々にご協力いただき、年間を通じた体験学習を行っている。教科書等の写真資料だけではなく、梨栽培や稲作の自裁の作業工程を体験できることは学習が深まるのと同時に、地域の方々との関わりも自然と生まれる。また、このつながりは、その時では終わらず、卒業し、大人となってもなお、「畑の先生」として、大きな存在となっているようである。

### ④ 障害者やお年寄りなど、さまざまな立場の方々との交流・体験学習

併設の支援学校小学部と年間を通して、交流及び共同学習を行っている。

～打ち水大作戦～

環境保全クールアースデーに伴い、稲越小学校と須和田の丘支援学校小学部の児童が校庭で一緒に生活排水を持ちより「打ち水」を行う。ペットボトルとキャップを回収する仕事を共同で行う。

～運動会での高齢者との共同競技～

本校の運動会では、卒業生や保護者は、もちろん、高齢者や未就学幼児も参加できる種目が多く組まれている。中でも高齢者のみなさんが低学年の児童と一緒に紅白で競う「ダンシング玉入れ」は好評である。



① ひばりまつり



② おせちづくり



## ③ 梨農家体験学習

## ④ 打ち水大作戦

## (2) 活動の詳細

## ① 活動内容

## ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

## イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

## ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

## エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・ユニセフ活動の手引き ・ひろがるつながる ESD 実践例 48

## ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善

活動名(前期)	扱い	時数	活動名(後期)	扱い	時数
前期ぽかぽかグループ編成・発表	***	***	なかよし(青空)給食②	給食指導	***
入学式(全校出席)	学校行事	1時間	ぽかぽか全校バス遠足	学校行事	6時間
笑顔でにっこりまたあした (6年生による1年生の送り活動)	総合	1時間/日 3日間	ふれあい清掃②	学校行事	1時間
ぽかぽか全校歩き遠足	学校行事	5時間	ひばりまつり	学校行事	2時間
1年生をむかえる会	学校行事		地域安全確認大作戦(コミサボ共催)	学校行事	2時間
ふれあい清掃①	学校行事	1時間	おわかれ集会	学校行事	2時間
なかよし給食①	給食指導	***	おわかれ給食	給食指導	***
ぽかぽか大運動会 (ぽかぽか競技・ぽかぽか演技)	学校行事	6時間	卒業証書授与式(全校出席)	学校行事	2時間
打ち水大作戦(支援学校小学部と共催)	***	***			
ぽかぽか水泳大会	体育	2時間			

ぽかぽかグループ年間計画

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

全学年7クラスという小規模校の良さを活かし「異年齢集団による縦割りグループ」という「仕掛け」を組織し、様々な学校生活の場でその「仕掛け」を生かしているのが、稲越小学校の教育活動の根幹となっている。

このことが子供にも保護者にも、そして教員にも、年月を経て根付いてきている。今後も一層充実させ、継続させていくには、「稲越小はぽかぽかグループの学校」と言い切れるくらい、「ぽかぽかグループ」を意識した教育活動に取り組んでいくことが重要になってくる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

学校評価は保護者アンケートと児童アンケートを併用して6月末と12月にとっている。「友達と関わっている」「友達となかよくしている」の項目で90%以上が肯定的であり、縦割り活動の充実が功をそうしていると考えられる。「学校は地域に情報を提供しているか」や「学校行事に参加しやすいか」でも90%と高評価である。「自分からすすんであいさつする」は保護者と児童の意識の差があり課題である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

本年度より学校用ホームページを一新して、月1回程度だった更新を大幅に改善して、学校行事等の様子を随時、発信した。「稲越ニュース」や「お知らせ」の他にも「安全マップ」や「保健だより」「給食だより」、「地域の自治会だより」もパソコンやスマートフォンで閲覧できるようにした。ESDの推進拠点として「ユネスコスクール」のリンクに直接アクセスできる枠も設けた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、E S D活動支援センター、E S Dコンソーシアムとの連携など）

1年生の生活科学習「昔遊び」で稲越自治会のみなさんを中心に学習支援で協力していただいている。コンピューターゲーム世代と言われている子どもたちが、高齢者のみなさんから教えていただく昔ながらの「コマ回し」や「めんこ」「お手玉」「あやとり」といった遊びに夢中になって取り組む。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

～市内ユネスコスクール加盟校である千葉県立国分高校との交流。～  
夏休み初日から平日の5日間に地域の学習支援ボランティアのみなさんや国分高校の学生ボランティアに協力していただき、夏休み前までの学習内容の復習を行っている。いつもの担任教師の他に多くの学習支援ボランティアのみなさんからサポートを受けられるので子ども達の意欲も高まり大きな学習効果を得ることができている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

全国学力テストや授業研の児童生活アンケートにおいて、本校は「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか。」や「地域で起きている問題や出来事に関心がありますか。」など自己肯定感や主体性に関わる項目で高い数値を示している。

- （3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「食育」を中心として地域の伝統文化や自己の生活を支える地域社会についての意識や知識を身に付けることができた。平成30年度はさらに、児童が主体的に得た知識を「知らせたい」「広めたい」という思いを育て、「参画する活動」へとつなげたい。また外国語活動や道徳科とE S Dの視点との関わりも年間計画の中で考えていきたい。